スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県富里市

自 治 体 名 ： 千葉県富里市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0476-93-7659

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	53.88㎢
人口	49,948人
公立中学校数	3校
公立中学校生徒数	4月：1,107人 9月：1,109人 2月：1,111人
部活動数 （運動部活動のみ）	28部活
地域クラブ活動数	37クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市の現状・課題

令和7年度4月、市内生徒数は1,107人であり、令和8年度では1,060人、令和13年度には919人にまで減少する見込みであり、市の人口減少とともに、生徒数も減少傾向となる。

そのため、今後、部員不足による廃部を余儀なくされるケースや団体競技において単独でチームを編成することができないケースが多発することが予測される。

富里市では、中学校における休日部活動地域移行について、令和6年7月、庁内に「プロジェクトチーム会議（協議会）」を立ち上げ、地域移行する上で考えられる課題を挙げて整理してきた。

課題としては、第1に「休日部活動地域移行に対する理解と協力体制が不十分な点」である。

生徒ならびにその保護者、地域住民、庁内における理解が不十分なまま進めてしまうと、持続可能な活動にはなり得ない。

第2に「予算・指導者の確保」である。休日部活動地域移行に際し、必要な備品や設備、指導者の確保にかかる費用をどのように捻出するかも大きな課題となっている。その他、交通・移動手段や指導者研修等、克服しなければならない課題が山積している。

数多くある課題の中でも、休日部活動地域移行を進めて行く上で一番に取り上げられるのが『指導者の確保』である。

併せて、指導者を確保できたとしても、その指導者がコンプライアンスに基づいた指導、生徒への関わりができるかどうかが不安要素になる。

富里市教育委員会では、令和5年7月から実施している富里北中学校剣道部での先行取組や、「プロジェクトチーム会議」で話し合われたこと等を踏まえ、令和7年度の総合体育大会が終了し、3年生が引退後、1・2年生主体の新体制での新人大会が終了する令和7年10月頃を目途に外部指導者による指導がスタートできるように進めてきた。

外部指導者を募集するに当たり、指導を希望する富里市役所職員・市内小学校教員、校長が指導者として適切であると認める、今まで外部指導者として携わっていた方や地域の方に協力を仰ぎ、地域移行を希望する部活動での外部指導者による指導を進めていくものとした。

休日部活動地域移行
中学校意向調査

スポーツ庁

富里市　休日部活動地域移行　ガイドライン　P24、25

【参考資料】1　市内中学校部活動の現状（令和７年度）

1　令和７年４月７日付け　市内中学校長に依頼（4/18回収期限）

〈調査内容〉

（1）設置部活動調査

① 担当者
② 担当顧問の競技・分野経験者
④ 地域指導者としての希望の有無
⑥ 地域指導者の協力を求める部活動

（2）部活動顧問調査

③ 担当顧問の専門的な指導の可否
⑤ 休日地域移行を求める部活動

以下、部活動顧問調査から、『部員数』『顧問数』『移行希望』をまとめた表

種目	富里中			富里北中			富里南中		
	部員数	顧問数	移行希望	部員数	顧問数	移行希望	部員数	顧問数	移行希望
野球	34	2	×	–	–	–	20	2	○
剣道	22	2	×	14	2	○	10	2	×
男子ソフトテニス	29	2	○	13	3	○	–	–	–
女子ソフトテニス	47	2	○	18	3	○	22	2	○
卓球	28	2	○	–	–	–	–	–	–

○ 地域移行を希望する　　× 地域移行を希望しない

24

参考資料１

種目	富里中			富里北中			富里南中		
	部員数	顧問数	移行希望	部員数	顧問数	移行希望	部員数	顧問数	移行希望
柔道	31	2	○	–	–	–	–	–	–
体操	32	2	○	–	–	–	–	–	–
男子バスケ	24	2	○	20	2	×	23	3	○
女子バスケ	13	2	×	–	–	–	5	–	○
陸上競技	39	3	○	–	–	–	25	2	○
女子バレーボール	26	2	×	19	2	×	–	–	–
男子バドミントン	37	2	○	–	–	–	35	2	○
女子バドミントン	25	2	○	–	–	–	–	–	–
サッカー	33	2	○	21	2	○	–	–	–
ソフトボール	21	2	○	–	–	–	–	–	–
吹奏楽部	62	3	○	25	3	○	34	2	○

○ 地域移行を希望する　　× 地域移行を希望しない

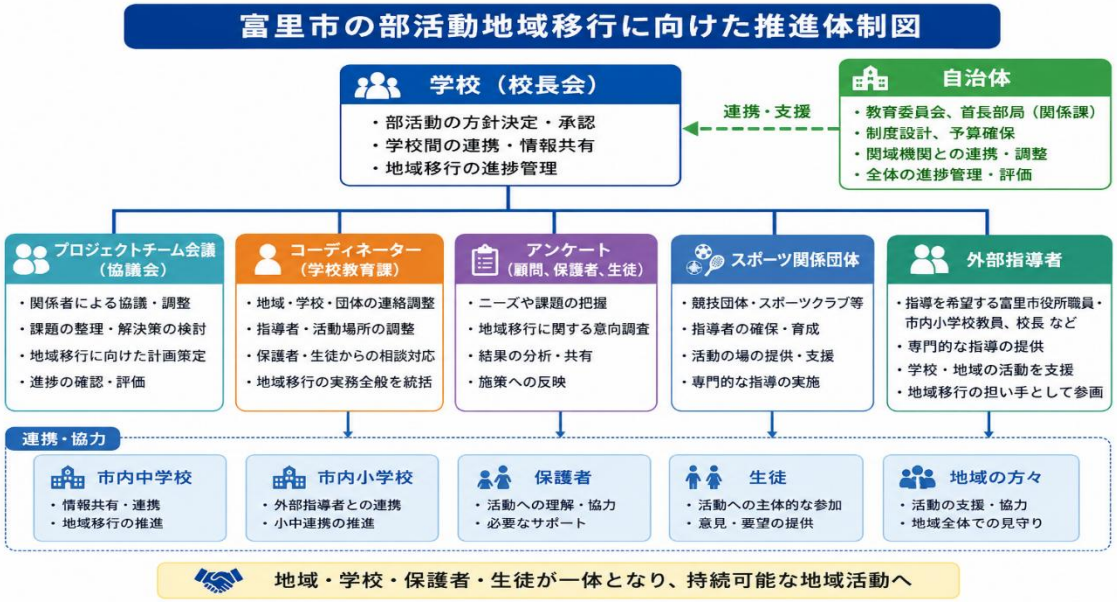
上記種目・分野の他、富里中（国際理解部・サテライト学習部、家庭科部、美術部）、
富里北中（アート部）富里南中（美術部）は、休日の活動無し

25

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）
- ガイドラインの作成、更新　・HPの作成、更新　・評価と改善
- 学校（校長会、部活動顧問）、生徒、保護者への説明
- 外部指導者の登録方法、コンプライアンス研修、保険の入会、謝金用口座確認
- コーディネーター
（活動場所、時間、連絡手段※緊急時含む※、日程調整等、巡回による状況把握）
- 各種大会規定の確認

◉首長部局（財政課、会計課、広報情報課、生涯学習課）
- 財政課：予算の確保と管理　・会計課：入金関係
- 広報情報課：議会資料、広報活動、HP関係
- 生涯学習課：社会体育関係

年間の事業スケジュール

№	内容	期日・期限	備考
1	千葉県と実証事業についての契約を締結 【令和７年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業】	9/26	契約期間：令和7年9月26日から 令和8年2月27日まで
2	指導開始前コンプライアンス研修実施	9月中	
3	外部指導者による指導開始	10/4	
4	指導開始後コンプライアンス研修①実施	11・12月	主にSNSの使用について確認
5	外部指導者、生徒・保護者、教員へのアンケート実施	1・2月	
6	指導開始後コンプライアンス研修②実施	2・3月	主に生徒への声かけ方法について確認
7	「令和７年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業」実証事業実施報告書兼実績報告終了	2/27	
8	令和8年度設置部活動確認・顧問確認	4月初旬	外部指導者による指導の希望有無を確認
9	令和8年度　外部指導者による指導開始	4/11	

令和９年度新体制（１・２年生での活動体制）を目標に
外部指導者による単独の指導体制確立

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		19クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		19クラブ（19部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	36人	全体の運営スタッフ数	76人（指導者36人＋顧問37人＋コーディネーター3人）

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
富里北中学校剣道部	部活動	剣道	• 平日0回 • 休日2～4回 ※大会等により、この限りではない。	8:30～11:00	1・2学年	令和7年10月～令和8年3月	7人	9人（内、兼務0人）	0円/年額（等）	中体連：部活動
富里中学校女子ソフトテニス部	部活動	ソフトテニス	• 平日0回 • 休日2～4回 ※大会等により、この限りではない。	8:30～11:00	1・2学年	令和7年10月～令和8年3月	1人	3人（内、兼務0人）	0円/年額（等）	中体連：部活動
富里南中学校バドミントン部	部活動	バドミントン	• 平日0回 • 休日2～4回 ※大会等により、この限りではない。	8:30～11:00	1・2学年	令和7年10月～令和8年3月	1人	3人（内、兼務0人）	0円/年額（等）	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 該当なし

2.実証内容と成果

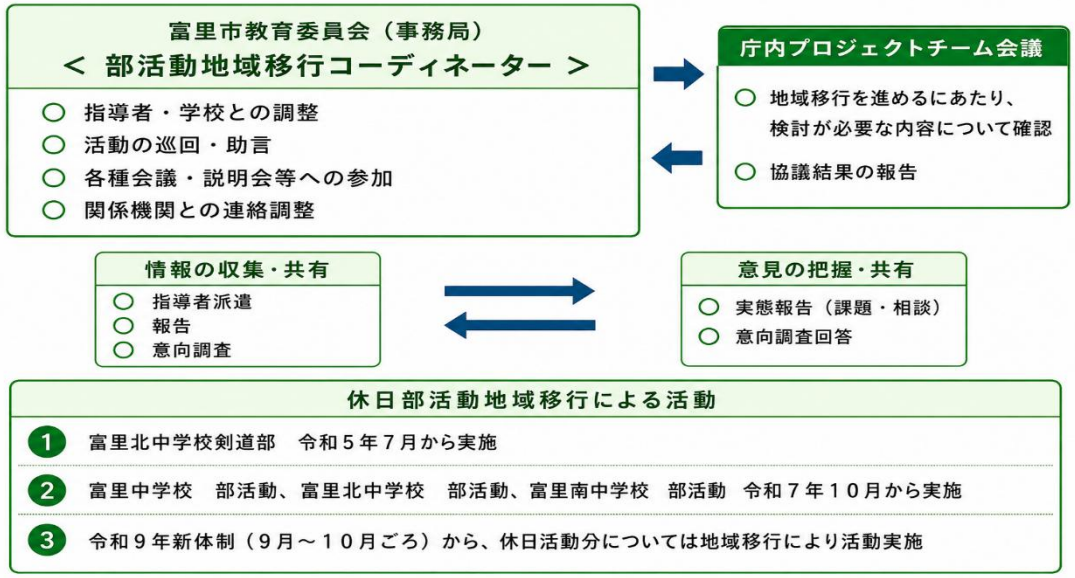
スポーツ庁

主な取組例

●富里市休日部活動地域移行　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球、野球、陸上競技、サッカー、ソフトテニス、バスケットボール、バドミントン、ソフトボール、体操、柔道、剣道
運営団体名	富里市教育委員会
期間と日数	各部活動：月2～4回程度 ※ただし、大会等により、この限りではない。
指導者の主な属性	富里市役所職員・市内小学校教員、校長が指導者として適切であると認める、今まで外部指導者として携わっていた方や地域の方
活動場所	主に学校施設 （グラウンド、体育館、武道場）
主な移動手段	通学時と同様、徒歩または自転車。 場合によって、保護者の送迎等。
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	日本スポーツ振興センター →加入手続きは学校対応 担当課は学校教育課 生徒1人あたり：550円/年 スポーツ安全保険 指導者1人あたり：1,850円/年 ※65歳以上1人あたり：1,200円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 富里市教育委員会
  役割：首長部局（財政課、会計課、広報情報課、生涯学習課）との会議、予算、広報やHP、施設管理の連携を行う。
- 統括責任者：コーディネーター（学校教育課）
  役割：活動場所・時間・連絡手段※緊急時含む※・練習予定等の調整。巡回による状況把握。各種大会規定等の確認。コンプライアンス研修。他市町との情報共有。
- 部活動顧問、外部指導者73名
  役割：コーディネーターとの日程調整。顧問・指導者間での情報交換。安全面確認。部活指導、助言等。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○ 富里市教育委員会
- 活動が軌道に乗るまでの間、事務局としての役割。学校（顧問）、保護者への説明。指導者の確保や報償の管理、関係者との連絡調整、指導助言。

○ 庁内プロジェクトチーム（市長部局との連携）
- 市内休日部活動地域移行の方向性を検討するための組織を設置。教育委員会（事務局）への指導助言。地域移行連絡協議会の役割を担う。

○ 地域移行コーディネーター（市教委＜事務局＞等で担当）
- 休日部活動を実施するにあたり、学校、外部指導者、生徒・保護者との連携をより強化、調整。毎週、巡回することで様子を把握。

○ その他
- 富里市スポーツ協会への説明。

取組の成果

○ 先行事例としての富里北中学校の剣道部のアンケート結果から、生徒・保護者、学校・部活顧問（教職員）、指導者からの高評価が得られたことで、この大きな成果が今年度の取組へと繋げることができた。

○ 部活動地域移行プロジェクトチーム会議で情報交換・協議を行い、中学校における休日部活動地域移行を実行するためのガイドライン等を策定。生徒・保護者、学校・部活顧問（教職員）及び外部指導者と共通理解を図り、正しく理解していただいた上で、協力を仰ぐことができた。

今後の取組における課題

- 予算の確保。
- 各種目、複数の指導者の確保。
- 令和8年度も今年度と同様のシステムで実施していく予定だが、教職員の異動等があるため、毎年度始めに必ず顧問の意向確認と部員数を確認し、調整・更新を行うこと。
- ガイドラインの見直し・更新。
- コンプライアンス研修の充実。集合研修を定期的に実施するのは、場所・時間的に調整が難しい。

課題への対応方針

- 予算の確保について

→不透明な部分が大きいため、国や県の動向を把握し、各関係機関と情報共有・協議を行いながら対応していく。

- 各種目、複数の指導者の確保について

→今年度の市職員による試行的な休日部活動地域移行の取組を通じ、積極的な広報活動やHPの活用を行い、地域の意欲ある方々に繋げられるように情報発信に努めていく。

- 教職員の異動、または、年度始めの部活動顧問の意向調査と部員数の変化に伴う、地域移行の調整・更新について

→異動してきた職員への説明と周知。アンケートや調査の速やかな実施。その結果に基づいた指導者の確保。

- ガイドラインの見直し・更新について

→国・県の動向を踏まえ、アンケート結果、巡回による現場の様子や感想・意見等を反映させる。

- コンプライアンス研修の充実について

→県や他市町の取組を参考にする。
上記同様、アンケート結果や巡回による現場の様子や感想・意見等を反映させる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

学校職員

1. 【成果】専門的な指導をする顧問不在の解消
   専門的な技術の向上
2. 【課題】指導法
   「はじめは外部指導者の指導に緊張っていた生徒も、いろいろな方が来ることで練習メニューが外部指導者目線で違い、練習についていけなくなる生徒も見られた。」

外部指導者

1. 【成果】専門的な指導をする顧問不在の解消
   「富里北中剣道部には、剣道経験のある顧問がいないため、平日の稽古は部員のみで実施されているようなので、外部指導は週１回の指導であったが、部員の技能の上達が感じられた。」
   「指導の中で回を重ねるごとに部員とのコミュニケーションも取れていたと感じる。」
   「顧問が競技未経験者のため、学校部活動では教わることのできない「技術的側面」や「精神的側面」など細かな部分について具体的に指導することができ、生徒たちの成長が見て取れた。」
2. 【成果】指導者による地域貢献
   「地域の一員として剣道の普及・発展に寄与することができた。」
3. 【成果】指導者自身の学び・成長
   「指導を通じ、生徒たちと会話の中から指導者としても新たな学びがあり、自らの成長につながった。」
4. 【成果】指導者による地域貢献・専門的な技能の向上
   「中学校から剣道を始めた生徒が、１１月の審査会で２級に合格するまでに成長したことは素直にうれしかった。」

共通して挙がった主なポイント

成果（共通）
- 専門的な指導をする顧問不在の解消
- 指導による技術の向上・成長の実感
- 地域貢献・剣道の普及
- 指導者自身の学び・成長

課題・要望（共通）
- 指導時間の確保・延長の希望
- 指導法の統一・一貫性
- 情報共有の仕組みづくり
- 外部指導者とのコミュニケーション・礼儀面の不安

生徒

1. 【成果】専門的な指導をする顧問不在の解消
   「試合前や審査前に、それに沿った指導が受けられる。」
   「技の正確度、技術面の向上や審査のときなどに良くみてくださる。」
2. 【課題】指導時間
   「内容によっては３時間ほど稽古をつけていただきたいです。」
3. 【課題解決】情報共有
   「共通の剣道日誌を作ったので、それをうまく活用できたらなと思っています。」
4. 【課題】外部指導者に対する生徒の不安
   「（先輩が後輩に教える時など）生徒だけでは剣道の礼儀を教えきれないので、（外部指導者に対して）失礼がないか不安です。生徒同士でも気を付けますが、先生方（外部指導者）から直接注意していただけるとうれしいです。」

保護者

1. 【成果】休日の活動内容についての満足度　とても満足２０パーセント　やや満足８０パーセント
   「週１でもありがたい。」
2. 【成果】専門的な指導をする顧問不在の解消
   「土曜日に確実に指導してもらえるだけでもありがたいと思う。」
   「剣道を指導してくださる先生がいないので、休日１日だけでも指導していただけて良かったです。」
   「指導できる剣道経験者がいないため、基本的なことを知らない、間違って覚えている状態でした。高段者の方々に指導していただけて感謝しています。」
3. 【要望】指導時間
   「可能であれば弁当持ちで５～６時間くらいお願いしたい。」
   「午前と午後で指導者が代わってもかまわないので、長くやってほしいです。」
4. 【課題】指導法
   「どの先生（外部指導者）にあたっても、教え方を統一してほしいです。」
5. 【課題】練習体制
   「大会引率をお願いしたい。大会での指導をしていただきたいです。」
   「試合後すぐのアドバイスがほしいです。」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備
イ：指導者の質の保障･量の確保
ウ：関係団体･分野との連携強化
エ：面的･広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

【プロジェクトチーム会議】



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

【生徒･保護者向けアンケート結果】



（1）休日部活動地域移行について

	市内中学校１・２年生徒	市内中学校１・２年保護者
以前から知っている	４８人（30.8%）	１１４名（50.9%）
今回初めて知った	１０８人（69.2%）	１１０名（49.1%）

（2）休日部活動地域移行によって学校の先生以外の方が指導者として指導する場合があることについて

	市内中学校１・２年生徒
とても期待する	２２人（14.1%）
期待する	７４人（47.4%）
不安である	４７人（30.1%）
とても不安である	１３人（8.3%）

（3）今後、休日部活動地域移行についての検討を進めていくことについて

	市内中学校１・２年生徒	市内中学校１・２年保護者
とても期待している	１９人（12.2%）	３５人（15.6%）
期待している	７１人（45.5%）	１０７人（47.8%）
不安である	４６人（29.5%）	５８人（25.9%）
とても不安である	２０人（12.8%）	２４人（10.7%）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備
イ：指導者の質の保障･量の確保
ウ：関係団体･分野との連携強化
エ：面的･広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整･指導助言等の体制や運営団体･実施主体の整備

No.	プロジェクトチーム会議で検討を進めていく主な内容	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ会議で方向性を決める目安
1	アンケート結果の検証、結果から課題を整理する	８月～９月中
2	富里市のビジョンを実現させるための具体的な方策について →　指導者の確保、教職員の業務負担軽減等	１２月中
3	指導者の管理について →　指導者のスケジュール調整、連絡調整、報酬等	１２月中
4	活動のコーディネート方法について →　生徒の名簿管理、練習日・練習場所の調整等	１２月中
5	指導者向けのコンプライアンス研修について →　生徒を指導する際の言葉遣いや接し方、保護者との関わり等	１２月中

今後、段階的に休日部活動地域移行を進めていくことができるよう、プロジェクトチーム会議を中心として検討を進めます。
プロジェクトチーム会議で話し合われた内容については、随時議会に説明させていただきます。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

① 休日部活動地域移行に係る説明
② 練習実施調整
③ 練習当日の巡回等
④ 出席管理、報償金準備
⑤ 指導者意向調査、参加生徒・保護者アンケート実施
⑥ 実績の整理、評価

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

○ 巡回を行い、実際に活動の様子を目にすることで、生の声をたくさん聞くことができ、顧問・生徒・外部指導者の関係性や雰囲気等を知ることができた。コーディネーターとして非常に勉強になった。
○ 地域移行実施に至るまでに、様々な場面で外部指導者とコンタクトを取る機会をいただき、巡回で活動の様子を見学した際、スムーズに外部指導者とコミュニケーションを取ることができた。
○ アンケートによるニーズに応えられるよう実施した、地域密着型地域移行の良さを身に染みて感じることができた。
○ 無理に大きく変えようとするのではなく、これまでの活動を踏まえながら、教育活動の一環としてスムーズに取組が進められ、外部指導者、生徒、顧問ともに受入れの雰囲気が良く、人間関係の構築もよくできていると感じた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

○ コンプライアンス研修の実施
○ ガイドラインの策定
○ 富里市職員服務規程：営利企業等従事許可願の作成
○ 富里市学校職員服務規程：兼職（兼業）許可願の作成
○ 緊急対応発生時連絡体制の構築
○ 生徒・指導者の保険
　生徒の保険：日本スポーツ振興センター 災害共済給付制度
　指導者の保険：スポーツ安全保険　公益財団法人スポーツ安全協会

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

○ 教職員の兼職兼業
○ 市役所職員の兼職兼業
○ 外部指導者の活用
○ 近隣大学等や包括連携協定を結ぶ大学との協力体制
○ 各種研修（指導研修、コンプライアンス研修等）の実施

取組の成果

○ 教職員の兼職兼業
- 4割の教職員が「兼職兼業」を希望しており、引き続き活動の指導を行える体制を整えることができた。

○ 市役所職員の兼職兼業
- 市役所内において部活動が存在しており、その部活動からの指導者を確保することができた。

○ 外部指導者の活用
- 校長が指導者として認める者、地域人材について、外部指導者として活用することができた。

○ 近隣大学等や包括連携協定を結ぶ大学との協力体制
- 近隣大学に協力を仰ぎ、専門的な指導ができ、生徒の指導を望む学生指導者を確保することができた。

○ 各種研修（指導研修、コンプライアンス研修等）の実施
- 指導するにあたり、生徒と接することへの心構えを確認することができた。

今後の取組における課題

● 1部活に対して、複数の指導者の確保
● 指導者の育成
● 指導研修、コンプライアンス研修の充実
● 指導による問題発生時の対応
● 安全管理基準の統一
● 生徒が継続してスポーツ・文化活動に親しめる環境の整備
● 生徒理解に基づく指導
● 保護者・地域への理解促進

課題への対応方針

● 1部活に対して、複数の指導者の確保や指導者の育成
→ 地域人材、退職教員、競技団体関係者、市職員の活用を進めるとともに、指導者研修を実施し、安全管理やハラスメント防止を含めた資質向上を図る。
● 指導研修、コンプライアンス研修の充実
→ 他市町との情報共有による、実際に起きている事例を基にした研修。巡回による定期的な生の声のヒアリングを行う。
● 指導による問題発生時の対応や安全管理基準の統一
→ 緊急対応発生時の連絡体制を管理職や養護教諭とも連携して、職員会議等でも確認する。
● 生徒が継続してスポーツ・文化活動に親しめる環境の整備
● 生徒理解に基づく指導　●保護者・地域への理解促進
→ 「地域連携型」を推進しながら、地域の実情に応じて段階的に地域展開を進め、持続可能な運営体制の確立を目指す。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- ガイドライン策定
- 市内校長・教員へ説明
- 庁内各課長等へ説明
- 議会への説明（全員協議会）
- 補正予算案審査（文教厚生常任委員会）

指導者研修の内容

研修名	富里市における休日部活動地域移行について
講師	学校教育課長
研修内容	• 休日部活動地域移行の目的 • 富里市の方針 • 休日部活動地域移行の実施に至るまでの過程 • 先行事例の富里北中学校剣道部のアンケート結果 • 市内中学生、保護者、部活動顧問のアンケート結果から得られた分析と対策 • 他市町の地域移行で起きているコンプライアンス問題 • 中学生世代の特徴等を踏まえた指導の在り方や保護者対応 • 指導者研修やコンプライアンス研修について • コーディネーターとの連絡調整等

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①
- **業者委託をせずに部活動の地域移行を実施するというイメージがわかなかったけれど、今日の研修で話を聞いて内容がよく分かった。**

参加者②
- **自分が担当している部活の専門性がないため、部活指導に引け目を感じていた。専門性の高い外部指導者が来てご指導いただけることは、顧問の私にとっても、生徒たちにとっても、保護者にとっても嬉しいことだと感じた。**

参加者③
- **他市町で、部活動と切り離した地域移行が始まっているのを聞き、トラブルが起きているのも耳にした。顧問と外部指導者が一緒に指導を行い、情報を共有しながら段階的に進めていくというのがとても良いと思った。**

参加者④
- **いずれは外部指導者だけでの部活動運営に期待したい。そのためにも、この試行期間を大切にしなければならないと思った。**

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○ 庁内プロジェクトチームとの連携
- 富里市内の部活動地域移行の方向性を確認、決定していく。

○ 市スポーツ協会、地域スポーツ団体との連携
- 施設の環境整備、受け皿となる指導者の発掘や育成を行う。

○上記の関係団体・分野との連携をより強化させるために、「地域移行コーディネーター」を市教委＜事務局＞で担当する。

○ 大学との連携
- 大学との連携による学生指導者の活用。

取組の成果

○ 庁内プロジェクトチームとの連携
- スポーツ庁・文化庁の動き、部活動が抱える問題、教職員の意識調査から、対処すべき内容が多くあることがわかり、それを加味しながら富里市内の部活動地域移行の方向性を確認、決定することができた。

○ 市スポーツ協会、地域スポーツ団体との連携
- 小学生の活動の情報収集や施設の使用状況や環境整備を行うことができた。

○「地域移行コーディネーター」を市教委＜事務局＞で担当
- 協議した内容や頂いたご意見等を部活動地域移行に反映することができた。

○ 大学との連携
- 指導者が少なく、専門性の高い体操競技部で、学生指導者に指導をいただくことができた。

今後の取組における課題

- 庁内プロジェクト会議の日程調整
- 新年度のプロジェクト会議メンバーの選定



課題への対応方針

- 庁内プロジェクト会議の日程調整

→ 早めに候補日をいくつか挙げ、全員参加できるのが望ましいが、その中でも一番多い人数が参加できる日を設定する。

- 新年度のプロジェクト会議メンバーの選定

→ 年度末の時点で、プロジェクト会議メンバーの条件を満たす方の選定を行い、承諾を得る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

○ 令和7年10月開始時は、学校顧問と外部指導者が一緒に指導することにより、生徒理解、指導法共有を図る。
○ 教育委員会事務局員（学校教育課指導班指導主事）をコーディネーターとして位置付け、休日活動分についての調整を行っていく。
○ 令和9年9月～10月の新体制（3年生が総合体育大会終了し引退した後）から、全ての休日の部活動について、外部指導者による指導体制に切り替えられるように、段階的に移行していく。
○ 外部指導者について、先導的な役割として、市消防職員、市職員、市内小学校教員、校長が指導者として認めるものでスタートするが、令和9年の新体制に向けて、指導者の確保を広げていく。

取組の成果

○ 学校顧問と外部指導者が一緒に指導を始めることにより、生徒理解、指導法の共有が図られ、事前アンケートで挙がっていた不安の声が軽減された。
○ 学校教育課の指導主事がコーディネーターをすることで、連絡・調整がスムーズに行えるだけでなく、速やかな情報共有から課題改善にも繋がった。
○ 外部指導者のみによる指導体制に切り替えられるよう、段階的な移行を目指し、今のところ特に大きな問題も起きることなく、順調に実施できている。
○ 令和9年の新体制に向けて、少しずつ指導者の確保ができている。

今後の取組における課題

● 指導者を確保できたとしても、その指導者がコンプライアンスに基づいた指導、生徒への関わりができるかどうか。
● 令和9年9月～10月の新体制（3年生が総合体育大会終了し引退した後）から、全ての休日の部活動について、外部指導者による指導体制に切り替えられるよう、見通しをもった計画。
● 外部指導者について、先導的な役割として、市消防職員、市職員、市内小学校教員、校長が指導者として認めるものでスタートしたが、令和9年の新体制に向けて、地域人材の指導者の確保。

課題への対応方針

● 指導者を確保できたとしても、その指導者がコンプライアンスに基づいた指導、生徒への関わりができるかどうかについて
→ 他市町との情報共有による、実際に起きている事例を基にした研修。
　巡回による定期的な生の声のヒアリング。
● 令和9年9月～10月の新体制（3年生が総合体育大会終了し引退した後）から、全ての休日の部活動について、外部指導者による指導体制に切り替えられるよう、見通しをもった計画について
→ 顧問から外部指導者への綿密な引継ぎ、緊急対応発生時の強化
● 外部指導者について、先導的な役割として、市消防職員、市職員、市内小学校教員、校長が指導者として認める者でスタートしたが、令和9年の新体制に向けて、地域人材の指導者の確保について
→ 広報活動やHPの活用、幅広いネットワークの構築

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

○ 学校・生徒のニーズに応じた取組
- 年2回の教職員、生徒、保護者の意向調査を実施し、学校や生徒の意向が活動に反映されるように尽力していく。

○ 学校、地域の理解を深める取組
- 保護者あて一斉メールを活用し、休日部活動地域移行に係る諸連絡を保護者に確実に伝えられるようにしていく。
- 市公式ホームページを活用し、部活動地域移行便り等を発行し、現在の活動の様子や将来的な展望についてを、保護者・地域に周知していく取組をしていく。

取組の成果

○ 休日部活動地域移行を実施する前に、意向調査を行ったことで、対策・防止策・ガイドラインへの反映等に役立てることができた。

○ 部活動顧問と外部指導者が一緒に指導を開始することで、生徒はもちろん、保護者も安心して部活動に参加したり、外部指導者とコミュニケーションを取ったりすることができている。

○ 専門的な指導が増えたことで、生徒から外部指導者へ質問が増える等、意欲・興味・関心の向上が見られた。また、保護者からも練習メニューの要望等も増え、部活動全体に活気が出てきた。

○ 外部指導者からも、「地域の一員として、競技の普及・発展に寄与することができた」という、指導者による地域貢献への高い充実感が示された。

今後の取組における課題

- コーディネーターから送信された連絡を一部の部活動顧問が把握しておらず、大事な変更等に対応できていなかったり、外部指導者に失礼な形になってしまったりということがあった。
- 年度が替わると職員の異動があるため、上記のような部活動顧問の意識改革も今後の課題として認識しておく必要があると感じた。
- 年度初めは写真撮影の許可が出ていても、年度途中で生徒指導上の問題や家庭の都合でHP等への写真の掲載が不可になる生徒がいた。

課題への対応方針

- コーディネーターから送信された連絡を一部の部活動顧問が把握しておらず、大事な変更等に対応できていなかったり、外部指導者に失礼な形になってしまったりということがあった。

→マチコミメールと校務支援システムの双方での連絡や、朝の打ち合わせ等で部活動担当から連絡してもらう。

- 年度が替わると職員の異動があるため、上記のような部活動顧問の意識改革も今後の課題として認識しておく必要があると感じた。

→年度初めの意向調査と同時に、着任職員への説明方法の検討を行う。

- 年度初めは写真撮影の許可が出ていても、年度途中で生徒指導上の問題や家庭の都合でHP等への写真の掲載が不可になる生徒がいた。

→まずは、校内での情報共有を徹底していただき、その上でコーディネーターへの情報提供を依頼する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

○ 現段階では学校施設の使用を基本としている。
○ 将来的には市公共施設の借用も検討する。
○ 意向調査の際、施設利用に関する質問項目を設け、施設の活用や管理方法についての改善を図る取組をしていく。
○ 授業、学校行事、平日および学校管理下の部活動を「第1優先」として、「学校備品」の利用範囲と責任の明確化する。
○ 教職員が立ち会うことなく外部指導者が自律的に開錠・施錠できるよう、「鍵の管理・開錠施錠」のデジタル化・省力化に努める。

取組の成果

○ 現段階では、学校施設の使用を基本としているため、大きな問題、大きなトラブルもなく実施できている。
○ 基本、学校部活動と活動場所が変わらないため、極端に移動距離が増えたり、保護者の送迎が増えたりしていないので、家庭へ大きな負担がかかることなく実施できている。
○ 暗証番号式キーボックスの導入により、外部指導者が学校側を介さずに、自律して開錠・施錠できるようになった。

今後の取組における課題

● 部員数に大きな増加が見られた場合、安全面や練習の効率等を考えると学校施設での活動よりも市公共施設での活動が好ましい状況が生じてくる。その際の、市公共施設の借用の流れや施設使用料の支払い、移動手段の安全面、出欠連絡の手段等の段取り。施設によっては早めの予約が必要。
● 段階的に顧問主導型から外部指導者主導型に移行していかなければならず、その際の施設管理方法。

課題への対応方針

● 部員数に大きな増加が見られた場合、安全面や練習の効率等を考えると学校施設での活動よりも市公共施設での活動が好ましい状況が生じてくる。その際の、市公共施設の借用の流れや施設使用料の支払い、移動手段の安全面、出欠連絡の手段等の段取り。施設によっては早めの予約が必要。
→ 活動場所が変わると、様々な連絡手段が滞る可能性がある。例えば、天候による練習予定の変更、交通事故等の連絡。学校や部活動内で、市公共施設等で移動を伴う練習の際の緊急連絡体制の確認・徹底を行う。
● 段階的に顧問主導型から外部指導者主導型に移行していかなければならず、その際の施設管理方法。
→ 他市町でも、施設の管理方法については大きな問題となっているので、どのような事例があるのか、また、その問題について他市町がどのような改善策を講じたのか、情報交換を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：**学校施設の活用等**
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

○ 先行事例として、富里北中学校剣道部が外部指導者のみで休日部活動地域移行を実施しており、体育館（武道場）のカードキーの受け渡しによる負担軽減に取組んでいる。
○ 登録された外部指導者やクラブ責任者が直接鍵を開閉できるようにし、教職員の土日出勤や立ち合い業務を完全に切り離せるようにする。
○ 施設・設備・備品の利用範囲、破損や紛失が発生した場合の報告・弁償ルート、清掃・現状復帰のやり方など、「利用ルールと責任所在」の事前一元化を行う。
○ 活動中の怪我や対物破損の補償は、学校の保険ではなく地域クラブ側でスポーツ安全保険等へ加入することを必須要件とし、トラブル時の事務処理負担を学校から除外できるようにする。

用具使用・管理等における取組

○ 学校が所有する大型・高額な備品を公式に貸し出せるように、「学校備品」の無償貸出制度の整備。
○ 登録された外部指導者やクラブ責任者が直接鍵を開閉できるようにし、教職員の土日出勤や立ち合い業務を完全に切り離せるようにする。
○ 用具の「破損時・紛失時の弁償ルール」や「定期点検の分担」を明確にしたチェックリストを作成し、学校とトラブル発生時の教職員の対応・折衝負担をなくせるよう、責任の所在の一元化を行う。
○ 施設・設備・備品の利用範囲、破損や紛失が発生した場合の報告・弁償ルート、清掃・現状復帰のやり方など、「利用ルールと責任所在」の事前一元化を行う。
○ 用具庫にダイヤル式ロックを採用し、外部指導者が教職員の立ち合いを必要とせずに用具を出し入れできる環境整備。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組の実施
- 表面的な改革ではなく、富里市の子ども達が将来に渡り運動に親しめる環境を整えていく。

○ 広報活動の強化
- 市公式ホームページを活用して、地域移行の情報を積極的に発信していく。

○市職員・消防職員を軸とした「持続可能な指導者登録制度」
- 競技経験のある市役所職員や消防職員、市内小学校教員などを中心に「富里市独自の外部指導者」として登録・組織化を進めています。

今後の取組における課題

● 外部指導者のみの指導へと移行した際に、
① 天候により外部活動が校舎内で活動をする時の施設管理。
② 文化部の活動の際の施設管理。
③ 校舎内の外部指導者の動線問題。
④ 外部指導者の単独指導時でも、不審者の侵入抑止や生徒の安全確認のための防犯設備。
⑤ 「単独指導」へシフトする際の引継ぎとタイミング
⑥ 指導者が熱心になるあまり、現代の学校教育基準に反する「体罰、暴言、過度な勝利至上主義」に陥らないための仕組みが必要。

取組の成果

○ 改革推進期間後を見据えた取組の実施については、外部指導者のみの指導による活動へと段階的に移行できるよう、生徒、保護者との人間関係・信頼関係の構築ができてきている。年度末のアンケート結果を基に、新年度から再始動できるよう計画していきたい。
○ 広報活動の強化については、市の広報誌や市公式ホームページを活用して、地域移行の情報を積極的に発信することができた。
○ 身元が確かで、公務員としてのコンプライアンス研修を受けた市職員や消防職員、小学校教員が核となることで、指導者の質が最初から高く保たれている。

課題への対応方針

● 外部指導者のみの指導へと移行した際、
①天候により外部活が校舎内で活動をする時の施設管理。
②文化部の活動の際の施設管理。
→ ①②に関しては、市内3中学校で管理職も含め検討の必要がある。今の富里市の現状から、職員玄関の鍵等を外部指導者に渡すのは現実的ではない。誰かしら学校職員が滞在しなければならない状況は働き方改革の観点からも避けるべきだと考える。
③校舎内の外部指導者の動線問題。
④外部指導者の単独指導時でも、不審者の侵入抑止や生徒の安全確認のための防犯設備。
→ ③④に関しては、校内で外部指導者の動線を決めていただき、顧問から外部指導者に年度内に周知・徹底していただく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

＜目標＞

○ 令和7年10月スタートについて

→令和7年10月、予定通り実施することができた。
　令和5年7月から実施している、富里北中学校
　剣道部については継続実施。

→学校が休日活動分について、地域移行を求める
　部活動においても、希望した全ての部活に外部
　指導者を派遣することができた。

◇ 富里中学校11部活動
（野球、女子ソフトテニス、卓球、柔道、体操競技、男子バスケットボール、女子バスケットボール、陸上競技、男子バドミントン、女子バドミントン、ソフトボール）

◇ 富里北中学校1部活動（サッカー）
　※剣道部は開始済み

◇ 富里南中学校7部活動
（野球、ソフトテニス、男子バスケットボール、女子バスケットボール、陸上競技、男子バドミントン）

☆ コーディネーターが毎週巡回することで、活動の様子の把握、特に外部指導者と直接コミュニケーションをとることでいろいろな意見や感想を聞くことができ、それを受けて部活動顧問にも助言アドバイスをすることができた。

【総括】

富里市の取組は、単に部活動を外部に丸投げするのではなく、「行政の人的リソース（市職員・消防職員）」と「学校のインフラ（防犯カメラや施設）」を掛け合わせ、予算に依存しない持続可能なモデルを目指している。

●成果の評価

◎ 全体的には、大きな問題、大きなトラブルもなく順調に進めることができた。
準備の段階から外部指導者や部活動顧問と関わらせていただいたことで、「知らないこと」を削減することができ、また、左記の通り、直接見る・直接関わることで、知らないところ・わからないところで問題が生じることにたいして予防できた点が大きかった。

◎ 学校（顧問）、指導者、生徒、保護者のアンケートを実施し、効果と課題について検証していく。

◎ 年度末に成果報告書を作成し、目標や課題をまとめるとともに、その結果を公表する。

◎ 身元が確かで、公務員としてのコンプライアンス研修を受けた市職員や消防職員、小学校教員が核となることで、指導者の質が最初から高く保たれています。

◎ 民間の業者へ丸ごと委託する場合に比べて、指導報酬などの運営コストを最小限に抑えられた。

●今後に向けて

◎ 富里市独自の実施方法だけれども、生徒と保護者のニーズに応えた、安心できる環境で持続可能な休日部活動をこれからも目指し、実践していきたい。

◎ 来年度は、再来年度の部活動顧問を切り離した外部指導者のみの指導につなげられる取組をしなければならないため、まずは、新年度の再スタートをきちんと切ること。早い段階で、新しい部活動顧問・外部指導者の定着を図り、丁寧に慎重にコーディネートしていきたい。

◎ 生徒の健康状態、家庭環境、学校での様子など、教員だからこそ把握できている情報を、休日の外部指導者へ「個人情報に配慮しつつどこまで共有するか」のルール設計が必要。

◎ 市内3つの中学校（富里中、富里南中、富里北中）で 、生徒の活動機会を平等に保てるようにする。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

Q.休日部活動地域移行にともない、外部指導者に指導してもらってよかったか?

- 良かった ―― 34.8%
- どちらかといえば良かった ―― 48.3%
- 普通 ―― 16.3%
- あまり良くなかった ―― 0.7%
- 良くなかった ―― 0.0%

Q.休日部活動地域移行の活動時間の満足度を教えてください?

- とても満足している ―― 21.3%
- 満足している ―― 38.6%
- 普通 ―― 21.3%
- 少し不満がある ―― 18.8%
- 不満である ―― 0.0%

Q.学校や顧問との連携について教えてください。

- よく連携できている ―― 26.2%
- 連携できている ―― 57.3%
- あまり連携できていない ―― 16.5%
- 全く連携できていない ―― 0.0%
- わからない ―― 0.0%

Q.外部指導者との連携について教えてください。

- よく活動できている ―― 33.1%
- まあまあ活動できている ―― 66.9%
- あまり活動できていない ―― 0.0%
- 全く活動できていない ―― 0.0%
- わからない ―― 0.0%

●参加者/関係者の声（１２月議会説明資料）

参加者/関係者①（コーディネーター）
毎週の巡回により、活動の様子、顧問・生徒・外部指導者の関係性や練習中の表情等、実際に見に行くことで生の声をたくさん聞くことができ、とても勉強になった。この調子で、段階的に地域移行を進めていきたい。

参加者/関係者②（生徒）
自分で見つけることのできなかった問題点を、解決方法・練習メニューと一緒に教えてくれた。初めて、家で自主練をしようと思った。部活の雰囲気が、今年、来年、再来年とどんどんよくなっていく気がした。

参加者/関係者③（指導者）
自分が中学生の時を思い出しながら指導をさせていただいている。素直な子たちが多く、部活が好きなんだなと感じられるので教え甲斐がある。人に何かを伝えることは難しく、勉強になる。設備がもう少し整うとよいのになと思う。

参加者/関係者④（保護者）
専門的な技術指導をしていただけて、とても助かっている。今までは、今日何の練習をしたのかを聞いてもよくわからないと返答が返ってきていたのに対し、今は、この場面を想定したときの、こういう練習をしたと答えてくれるようになった。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【富里中学校：野球部】



【富里中学校：野球部】



【富里中学校：女子ソフトテニス部】



【富里中学校：女子ソフトテニス部】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料



【富里中学校：卓球部】



【富里中学校：卓球部】



【富里中学校：柔道部】



【富里中学校：柔道部】

2.実証内容と成果⑤

スポーツ庁

参考資料



【富里中学校：バスケットボール部】



【富里中学校：バスケットボール部】



【富里中学校：陸上競技部】



【富里中学校：陸上競技部】

2.実証内容と成果⑥

スポーツ庁

参考資料



【富里中学校：バドミントン部】



【富里中学校：バドミントン部】



【富里中学校：女子ソフトボール部】



【富里中学校：女子ソフトボール部】

2.実証内容と成果⑦

スポーツ庁

参考資料



【富里北中学校：剣道部】



【富里北中学校：剣道部】



【富里北中学校：サッカー部】



【富里北中学校：サッカー部】

2.実証内容と成果⑧

スポーツ庁

参考資料



【富里南中学校：野球部】



【富里南中学校：野球部】



【富里南中学校：女子ソフトテニス部】



【富里南中学校：女子ソフトテニス部】

2.実証内容と成果⑨

スポーツ庁

参考資料



【富里南中学校：バドミントン部】



【富里南中学校：バドミントン部】



【富里南中学校：バスケットボール部】



【富里南中学校：バスケットボール部】

2.実証内容と成果⑩

スポーツ庁

参考資料



【富里市長・教育長・教育部長・学校教育課長　訪問】



【富里市長・教育長・教育部長・学校教育課長　訪問】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

各市町で1部活動を地域移行
↓
富里北中学校：剣道部

プロジェクトチーム会議
外部指導者の選定
政策提言

令和7年

各学校で複数部活動を地域移行
↓
学校現場との調整

生徒、保護者への説明
市内学校職員への説明
議会での説明

令和8年

市内中学校全ての部活動の地域展開開始

令和9年

市内中学校全ての部活動の外部指導者のみによる地域展開の開始

● **ステークホルダー**

学校教育課、学校、部活動顧問、保護者、スポーツ少年団、首長部局（財政課、会計課、広報情報課、生涯学習課）

● **経過**

少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなってきている。また、専門性や意思に関わらず教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなる。

● **実施にあたって生じた課題**

生徒や保護者の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境を整備する必要がある。

● **実施内容、工夫した点 等**

富里北中学校剣道部の先行事例を踏まえ、他の種目においても地域移行を前に進めるため、試行的取組として意欲のある本市職員に協力を求めることを検討する。

● **ステークホルダー**

学校教育課、学校（校長会）、部活動顧問、保護者、スポーツ少年団、首長部局（財政課、会計課、広報情報課、生涯学習課、教育総務課、健康推進課、財政課）、プロジェクトチーム会議

● **経過**

令和6年度、まず3回のプロジェクトチーム会議を実施。協議・検討内容のアンケートを生徒、保護者向けに実施。アンケート結果を、第4回プロジェクトチーム会議で確認。ガイドラインの作成。

● **実施にあたって生じた課題**

- 富里市のビジョンを実現させるための具体的な方策について
→ 指導者の確保、教職員の業務負担軽減等
- 指導者の管理について
→ 指導者のスケジュール調整、連絡調整、報酬等
- 活動のコーディネート方法について
→ 生徒の名簿管理、練習日・練習場所の調整等
- 指導者向けのコンプライアンス研修について
→ 生徒を指導する際の言葉遣いや接し方、保護者との関わり

● **実施内容、工夫した点 等**

子どもたちが将来にわたってスポーツや文化芸術活動を継続的に親しむ環境を地域で整える。段階的に休日部活動地域移行を進められるよう、プロジェクトチーム会議を中心として検討していく。

● **ステークホルダー**

学校教育課、学校（校長会）、部活動顧問、保護者、スポーツ少年団、首長部局（財政課、会計課、広報情報課、生涯学習課、教育総務課、健康推進課、財政課）、プロジェクトチーム会議

● **経過**

令和7年度の試行期間を経て、令和8年度の本格実施開始。7年度のアンケート結果を基に、評価・改善を行う。人事異動に伴う、意向調査・顧問数・部員数の確認。着任職員への説明。実証事業契約、外部指導者関係の手続き。

● **実施にあたって生じた課題**

令和9年度の部活動顧問を切り離した、外部指導者のみによる指導への段階的な移行。それに伴う、施設管理問題。外部指導者の校舎内の動線の徹底。

● **実施内容、工夫した点 等**

他市町との協議会への積極的な参加と、情報交換。また、エリアコーディネーターへの相談と活用。令和9年度の部活動婚を切り離した、外部指導者のみによる指導への段階的な移行に向けた、コーディネーターの更なる役割の確認。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

No.	内容	期日・期限	備考
1	千葉県と実証事業についての仮契約 『令和7年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業』完了検査 『令和7年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業』成果報告書 スポーツ安全保険　入会手続き	2/27 3/10	契約期間： 令和7年9月26日から 令和8年2月27日まで
2	県からの「地域クラブ活動に関する意識調査」フィードバック	2/24	
3	HPにて「地域クラブ活動に関する意識調査」フィードバック公表 プロジェクトチーム会議開催 ガイドライン見直し 年度初め　学校への意向調査・アンケート調査準備	3月下旬	
4	校長会・教頭会での地域展開の方針説明 年度初めの意向調査・アンケート調査実施 令和8年度設置部活動確認・顧問確認 令和8年度　外部指導者による指導開始	4月上旬	
5	外部指導者新規登録手続き	4月下旬	
6	指導開始後コンプライアンス研修①実施 （新規の指導者もいるため、富里市の地域展開の趣旨も説明）	5月	
7	指導開始後コンプライアンス研修②実施 （総体終了後の新チームに向けての研修）	7月下旬	
8	プロジェクトチーム会議開催	10月下旬	
9	コンプライアンス研修を兼ねた巡回によるヒアリング	9～12月	
10	『令和7年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業』 完了検査・成果報告書　提出準備開始	1月下旬	
11	『令和7年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業』完了検査 『令和7年度千葉県地域クラブ活動体制整備事業』成果報告書	2月下旬 3月上旬	